

ちゃんと かわら版 千歳



千歳市は5月14日、プロバスケットボールチーム「レバンガ北海道」(折茂武彦代表取締役社長)と、地域活性化や市民サービスの向上を目的とした包括連携協定を結びました。

レバンガ北海道は、札幌市を拠点とする男子プロバスケットボールチームで、Bリーグ1部の東地区に所属。旭川、函館、帯広、釧路など道内各地で試合を開催しています。また、バスケットボールアカデミーを運営し、U-15やU-18の育成チームを通じて、地元出身選手の育成にも力を入れています。道内自治体

などと協定を結ぶのは、今回で16件目となります。

協定では、地域の魅力発信や観光振興、健康づくりなど他分野に渡る取り組みを推進するもので、市内の小中学校でのバスケットボール教室やスポーツ振興事業の展開、道の駅などでのイ



レバンガ北海道と連携協定

千歳市の地域活性化を目指す



ベントの出展、ホームゲーム会場での千歳市特産品の販売などが予定されています。

折茂社長は「協定締結を機に、市民の皆さまとの関わりをさらに深めていきたいと考えております。千歳市は今、日本国内だけではなく、世界から注目が集まる勢いのあるまちです。この勢いを私たちも分けていただき、一緒に世界を広げていきたいと考えています」と語りました。

(編集部 大谷)

アリス認定こども園のアリス子育て支援センターで5月23日、「はじめてママ講座2回コース②離乳食講座」が開催されました。参加者は親子10組。こども園の栄養士である林杏子氏が講師になり、離乳食のノウハウをビデオも活用し学びました。

離乳食講座 親子で離乳食のノウハウを学ぶ



冒頭で林杏子氏は離乳食について「母乳やミルクを飲んで育ってきた赤ちゃんが、少しずつ固さや形ある食べ物に慣れ、こどもの食事が食べられるようになるプロセス」と説明。続いて、「5〜6カ月頃で首がしっかり座っていた

氏は順を追って説明しました。「初期は食事回数が1回、ヨーグルト状にすり潰した、つぶしがゆから始め、中期は舌でつぶせる固さのつぶつぶがゆに変わり、後期は幼児食に近い手づかみで食べやすい棒状で、かつ歯茎でつぶせる固さにしていき、最後の完了期は歯茎で噛める固さで、軟飯からごはんに変わっていきます」と話しました。また、「初めての食材を与える場合はアレルギー反応がでた際、すぐに病院に行けるように平日の午前中にやってください」と注意喚起も行いました。

期間中の食事見本を母親達に触らせ、感触の違いを体験していました。

質疑応答も盛り上がり、講座の終了後、食量やスプーンの形状の説明をうけながら、園の子の食事風景を見学しました。

その後行われたモールドづくりでは笑顔が飛び交い、講座は大盛況に終わりました。

参加した6カ月の子どもがいる松田里紗さんは「初めての離乳食でわからないことだらけで、やっていいかなどを質問できてよかったです」と話しました。

(編集 佐々木)

令和7年度千歳防犯協会定期総会 2名を表彰



5月26日、千歳商工会議所にて千歳防犯協会定期総会が開催され、防犯功労者として2名が千歳警察署長、千歳防犯協会長連名より表彰されました。表彰されたのは松本一光さん(写真上右)と山石満秀さん(写真上左)。

はじめに2名の授賞式が行われ、その後、千歳防犯協会会長瀧澤順久氏が「長年にわたり防犯活動にご尽力いただき顕著な功績をあげられた方に表彰状をお送りします。地域の安全に誠心誠意務めてこられた受賞者に敬意と感謝の意を表したいと思います。」と話しました。

松本さんは末広中区の町内会長を勤めていて、対象となった防犯活動は防犯灯の増設と清掃活動です。末広中区は4、5、6丁目目が範囲であり、6丁目目は住宅がありません。そのため、住宅のある4、5丁目目に防犯灯を10基増設しました。清掃活動は月5回以上の清



掃を5人で行っております。特に、末広中区の範囲である千歳駅東口周辺は吸い殻、自転車や車の事故原因になりかねない空き缶、ペットボトルなどのゴミが多く、清掃することで事故を未然に防いでいます。

山石さんは稲穂町内会の介護予防サロンの「歩む会」の介護予防リーダーを務めています。同会で、老人の方々に横断歩道を渡るリハビリを行っていただきます。ストップウォッチを持ち、どれくらいの時間で渡れたかを計測し、事故の危険を回避しています。また、稲穂公園で不審者が、ツツジの木陰に隠れながら子どもたちに害を加える事件が発生していたため、伐採し、公園の見通しを良くしました。

表彰に対し2人は、「これまで行ってきた活動が評価されて、嬉しい」と語りました。

(編集 佐々木)

店内ジュエリー

50%OFF

(ブライダルジュエリーは除外)